

神  
拜  
心  
得  
要  
旨  
全

249

34

014280-000-2

249-34

神拜心得要旨

田中 知邦/著

M44

ABB-0622





天賜  
臨見



249  
34

神拜心得要旨

緒言

此神拜心得要旨は、敬神崇祖の趣旨と普及せしめむが爲め起草し、掌典宮地嚴夫氏、神宮奉齋會長藤岡好古氏等の檢閲と經更に神慮と伺ひて稿と脱す。而して廣く有志者に頒布せむが爲め印刷に付す。

明治四十三年十一月

神拜心得要旨緒言

田中お卯守贈本

明治  
44.12.10  
印刷



從六位勳六等 田中知邦誌

二

神拜心得要旨

田中知邦謹撰

天津日即ち太陽は天津神のまします所にして、六合を照臨し、あらゆる群類を照育して瞬時も休息することなし。其恩徳の洪大無邊なる、實に譬ふるに物なし。而して其主宰は、天照皇大神にまします。此故に古典に皇大神を日神ともたはへ奉れり。かしくも皇大神は、惟れ祖、惟れ宗、尊きこと二つなり。とありて、實に皇大神は萬神の統領にましますなり。伊勢皇大神宮は、神代の昔、天照皇大神の御神氣を遷せさせ給ひて、御親せから皇孫瓊々杵尊に授け給ひし八咫の寶鏡を、皇大神の御神體として齋き祭れる所なり。されば皇大神



宮は、實に神社の宗源にして、千萬世國家鎮護の根軸なり。  
國郡市町村及島嶼に鎮め奉れる産土神在昔は産土神と、氏に現し、今は、中世以降を氏神と混同して、地方少からたき、其の別多し。應  
るしがたし。故て産土神は、氏子と稱す。は、其土地人民を愛護し、災  
害を除き、幸福を與へ、百穀萬物を豊阜にし、交易を繁昌にし  
給ふ神なり。

然れば、人たらしむ者は、賢愚老幼貴賤貧富の別なく、毎朝起  
れば、必き先づ身體を清め、精神を深くして、誠心誠意、天津日  
に向ひ禮拜を爲し、次に伊勢大神宮を拜し、次に産土神社を  
拜し、次に八百萬神を拜し、次に家祖の靈を拜すべし。人若し  
災害消除、疾病平癒、家運隆昌等を神に祈らむとする時は、先

づ其土地人民の安寧幸福を掌り給へる産土神に之を願ひ、  
尋きて餘の神々に願ふべし。産土神に願はせしめて餘の大神  
に祈るは、宛も其管轄する政廳をさし置きて朝廷に直訴す  
るが如し。是れ祈願の順序にあらざるなり。

### 神拜式

毎朝夙く起きて身を清め、全身を洗ふこと能はざる者は、  
心を深くし、他念を去り、一心一向になりて、先づ天津日  
に向ひ二拜し、手を二度うち、

掛卷毛かけまく 恐かしこ 天爾あま 在須ま 諸大神守利もろく 賜閉たま 幸閉さきは



賜閉たまへ

と唱へて、手を二度うち、二拜すべし。

次に伊勢大神宮の方に向ひ二拜し、手を二度うち、

掛巻毛恐支かけまく 天照皇大神守利賜閉幸閉あまてらすすめ

賜閉たまへ

と唱へて、手を二度うち、二拜すべし。

次に産土神社の方に向ひ二拜し、手を二度うち、

掛巻毛恐支かけまく 産土大神守利賜閉幸閉賜うぶすまの

閉へ

と唱へて、手を二度うち、二拜すべし。

次に我神棚に洗米を供へ、燈明を點じて着座し、二拜し手を二度うち、

掛巻毛恐支かけまく 天津神地津神八百萬神あま

等守利賜閉幸閉賜閉たち

と唱へて、手を二度うち、二拜すべし。

次に我先祖の靈舎に洗米を供へ、燈明を點トて着座し、二拜し手を二度うち、



掛かけ卷まく毛か恐かしこ支え我わが遠とほ津つ御み祖た代や々よ乃い御み祖た乃や

御み靈たま等らた守まも利り賜たま用ひ幸さいは閉ひ賜たま閉ひ

と唱へて、手を二度うち、二拜して退座すべし。

神棚、及靈舎に供へたる洗米は、便宜撤すべし。但翌朝供ふる際まで供へ置くも妨げなし。

神拜の節、兵營に在る者、學校に在る者、旅舎に宿泊の者などにて、手を打ちがたく、拜詞を口に唱へがたき者は、誠心誠意にて、心の中に拜詞を唱ふれば、口に唱へざるも、手を打たざるも差支なし。

附録

敬神につき一言

明治四十四年一月一日 田中知邦演説ノ要領

世界に祭れる神に、實在と理想との別あり。又尊きあり、尊からざるあり。其徳の大なるあり、大ならざるありと雖も、神は凡て人間より上なれば、人間たらむ者は皆神を敬すべきものとする。

凡天下の事は、「衆寡敵せむ」と云ふ古言の如く、小を以て大を制すること能はば、寡を以て衆を破ぶること能はざるは、固より天理にして、人智の能く左右し得べきものにあらず。然るに日露戦争の如きは、此天理に適合せざるが如し。何なれ



八  
ば露西亞は大にして衆なり、我日本は小にして寡なり。然るに我皇師は、戦へば必き勝ち、攻むれば必き取る。就中日本海々戦の如きは、世界開闢以來未曾有の大戦闘にして、我國は萬國の豫想に反し、比類なき大勝利を獲て、世界の人類を驚愕せしめたり。彼我の軍艦を比較すれば、艦體に於ても、實力に於ても、彼は我に優れり。殊に文明の戦術に於ても、彼は先進國たり。然るに其戦闘の結果は如何、我は僅々水雷艇三隻を失へるのみにして、彼は我ために或は撃沈せられ、或は捕獲せられ、辛うじて逃走し、無事に歸國することを得たるものは、三十八隻中二三隻に過ぎぬ。殆ど全滅せりと謂うて可なり。嗚呼偉ならぬや、奇ならぬや。

我國は何に因りて、海陸共に無比の大勝利を得て、殆ど天の理に適合せざるが如き現象を呈せしか、是他なし我皇威聖徳の然らしむる所のみ、決して他國の望みて得べき所にあらざり。何なれば、上には日の神、天照皇大神の御子孫にはしまして、之を統治し給ひ、下には忠孝なる臣民ありて、各其祖先の緒を紹きて之に服事し奉り、まことに教育の勅語にのたまひしごとく、上下一徳以て敬神の誠を盡せばなり。斯の如き邦國は、世界狭きよあらざり、邦國寡きよあらざれども、我日本を除きては他に一もあることなかるべし。

古來我國が海外の強大國と兵を交へて大勝利を獲しは、唯



り露西亞に對するのみにあらず。明治二十七八年、日清戰役の如き、六百年前、蒙古襲來の時の如き皆然り。又 神功皇后は女體にましませしかども、刃に血ぬらす、一本をも傷けずして、見事に韓國を制服して我の屬國となし給へり。今又國土一萬三千四百里、人口一千万人を有する韓國全土を、平穩無事に我版圖に歸せしめし所以のものも、亦一に天皇陛下の 御威徳の致す所に外ならざるなり。

世界廣くと雖も、我 天皇陛下の 御威徳に比すべきものあることなし。是我 皇位は、天津神の定め給ふ所なればなり。即ち我 皇位は、數千萬年の昔、 天照皇大神の 神勅に因りて確定し、爾來今日に至れり。將來幾億萬

歳を経とも決して變易することあるべからず。其 神勅に「葦原千五百秋之瑞穂國、是吾子孫可王之地也、宜爾皇孫就而治焉、行矣寶祚之隆、當與天壤無窮者矣」とあり。故に天佑神助も亦、天壤と與に窮り無かるべきなり。是實に古今一轍、我外征軍の敗を取らざる原因にして、寡を以て衆を破り、小を以て大を制する事を獲し所以なり。嗚呼正確なるかな

皇大神の 神勅、嗚呼尊嚴なるかな我帝國の 皇位。

後宇多天皇の 御製に、「天津神、くにつ社を、齋ひてぞ、わが葦原の國は治る。」とあるが如く、國民舉りて天神地祇を敬仰尊信せば、天下泰平、國家隆昌なり。則ち一身一家にて神祇を信仰すれば、其身、其家は安寧幸福なり。一町一村にて神祇を



信仰すれば、其町、其村は安寧幸福なり。郡市島嶼にて神祇を信仰すれば、郡市島嶼は安寧幸福にして、終に天下泰平、國家隆昌となるに至る。嗚呼敬仰せざるべけんや、尊信せざるべけんや。

我神聖なる國史に顯在する天神地祇は、皆實在にして理想の神にあらず。故に神德洪大にして、靈驗顯著なり。一千七百年前、神功皇后征韓の時、六百年前、蒙古襲來の時、明治二十七八年、日清戦役の時、明治三十七八年、日露戦役の時、我軍は始終大なる天佑神助を得たり。此他我帝國大小の事に就き、一身一家の事に就き、古今特殊の神助を蒙りて、大事業を成功せしもの實に枚舉に遑あらず。眞に我國史顯在の神祇

は、實在にして其神德靈驗世界無比なる事を知るべきなり。敬神崇祖は修身齊家治國の根基なれば、各自誠心誠意神祇祖宗を敬仰尊信せば、君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友の道圓滿に行れ、學を修め、藝を習ひ、分を守り、職を勉め、業を勵み易くして身修り、家齊ひ、一家團樂する事を得て、終に天下泰平、國家隆昌となるに至る。然れば我國民たらむ者は、貴賤老幼貧富賢愚の別なく、皆誠心誠意、天津日、伊勢大神宮、官國幣社、産土神社（氏神を含む）を始め、天神地祇八百萬神、及家祖累代の靈を敬仰尊信して、一身、一家、一町、一村、郡市島嶼、及全國の泰平隆昌を期せきして、可ならむや。

神拜心得要旨畢



249  
84

不許  
複製

明治四十四年五月二十七日印刷  
明治四十四年六月五日發行

滋賀縣栗太郡葉山村大字辻第四十八番屋敷住  
島根縣鹿足郡津和野町大字森村八拾番地青藤

著作者兼  
發行 田 中 知 邦

島根縣那賀郡濱田町大字新町壹番地

印刷者 長 見 新 太 郎

島根縣那賀郡濱田町大字新町壹番地

印刷所 濱 田 活 版 所



